

Ⅲ 下水道事業の経営状況と今後の見通しについて

下水道使用料金の値上げについては、当初平成30年4月からの予定でしたがこれを見送り、平成29年度決算を踏まえて、今後の経営状況の見直しを行うこととしていました。

今般、決算が確定したことから、改めて経営状況について検討した内容についてお知らせいたします。

1. 下水道事業の現状について

※平成29年度末現在

項目	公共下水道	農業集落排水	町営浄化槽	計	備考
整備年度	S62 ~ H24	S61 ~ H16	H16 ~ 継続	—	企業債償還残額 76億4,213万円
事業費 (消費税込み)	(百万円) 10,556	(百万円) 11,155	(百万円) 317	(百万円) 22,028	
事業量	111 km	107 km	203 基	218 km 203 基	
汚水処理人口 普及率 (%)	54.1	32.5	6.7	93.3 (県下3番目)	全国平均 90.9%
水洗化人口 割合 (人)	49.4	30.8	4.6	84.8	

快適な生活を目指し、町民から下水道整備の早期要望があり、町もこれに応じて下水道整備を進めてきました。その結果として約9割の町民が下水道を使用できる環境となり、県下で3番目の普及率となりました。しかし、短期間に下水道整備をしたことから、その借入が多くまた返済も大きいため、その返済財源として毎年借入を起こしています。そのため、企業債の償還期間が長期化しており経営の悪化を招いています。

また、今後は30年を超える老朽施設の長寿命化に伴う更新事業に加え、国道4号拡幅に伴う管路移設工事及び農業集落排水の公共下水道接続工事が予定されており財源不足をきたしています。

2. 平成29年度決算状況について

①収入 970百万円

国県補助金 14

(単位:百万円)

下水道使用料 257	町補助金負担金 454	企業債 246 [※]
---------------	-------------	----------------------

②支出 913百万円

収支残 57

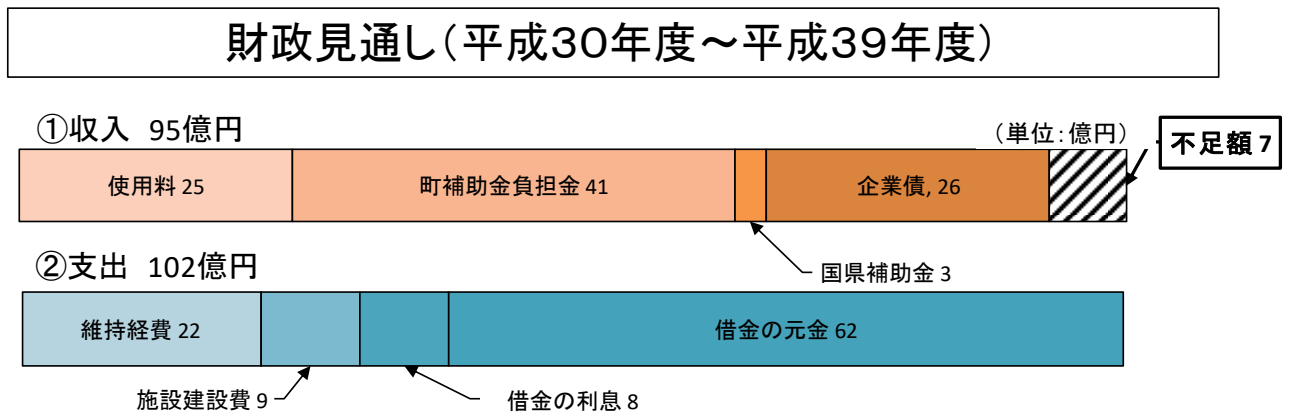
維持管理費 175	借金の利息 141	借金の元金 563
--------------	--------------	-----------

施設建設費 35

※ 平成29年度の企業債246百万円のうち223百万円が資本費平準化債である。

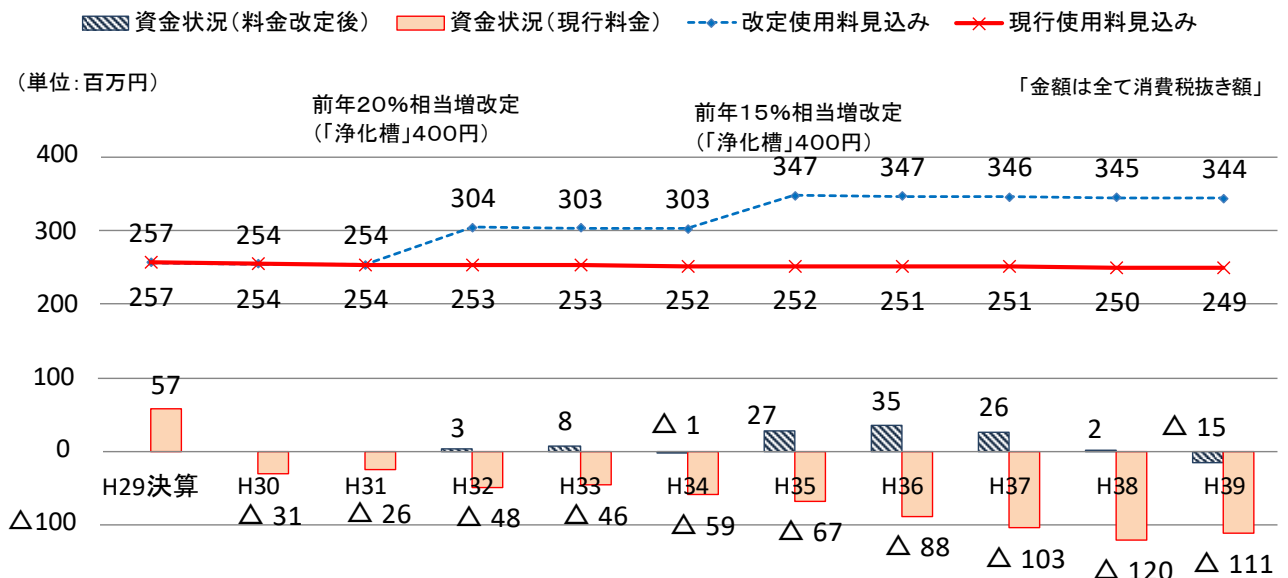
3. 今後の財政見通しについて

下水道事業は独立採算が基本ですが、町補助金負担金に依存している状況です。町補助金負担金については、少子高齢化による子育て支援、高齢者福祉、公共施設の維持管理等の支出が今後増加することから、事業への繰り入れが減少します。このことから、下水道使用料の増収による財源確保をしなければ、経営ができない状況です。現行料金で経営を継続した場合、平成30年度から平成39年度まで（10年間）の収入見込額95億円に対し支出見込額が102億円となり、約7億円の不足が生じます。



4. 下水道使用料金の見直しと資金状況について

現行料金及び見直し料金による資金状況(3事業合計)



平成29年度は維持管理費の削減により、57百万円の収支残となりました。現行使用料見込みの場合、平成30年度の31百万円の不足からピークの平成38年度には120百万円の不足が見込まれます。平成31年度までの不足額については、内部資金で賄えると判断し、使用料金は現行どおりとします。しかし、今後の不足額を解消するためには、平成32年度から段階的な使用料金改定が必要となります。